

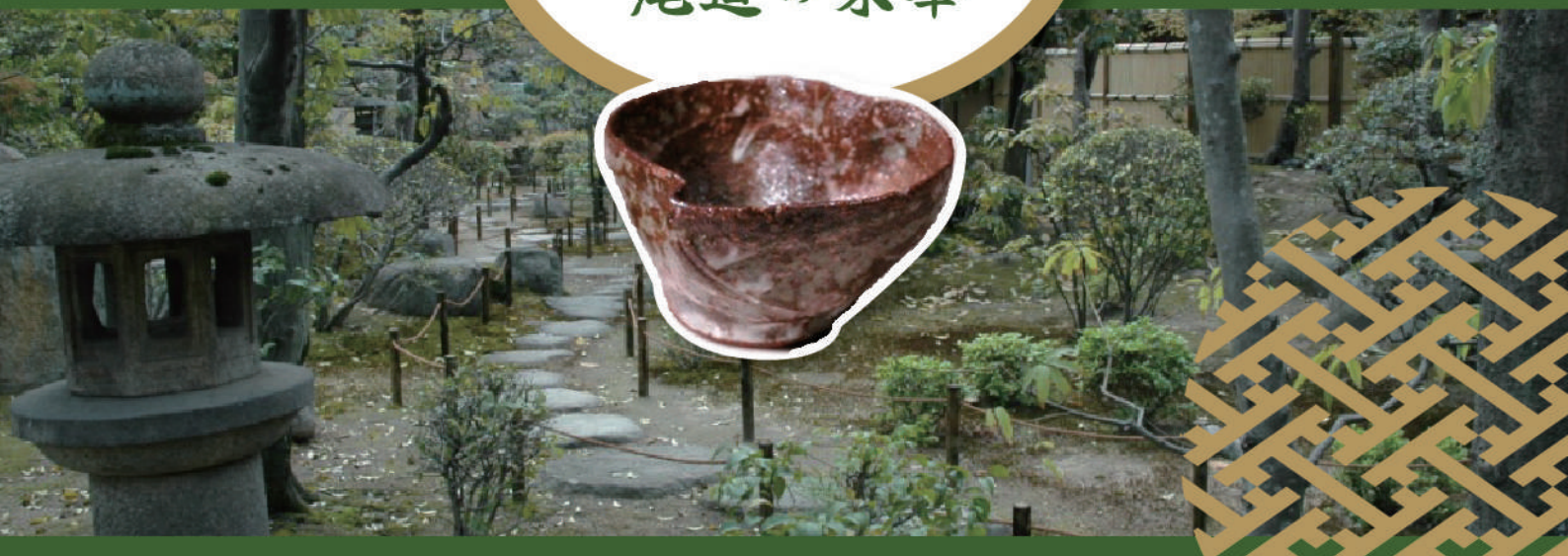


SAEN
茶園文化
近世尾道の
おのみち歴史博物館企画展

北前船船主が見た
尾道の栄華



日本遺産



令和8年(2026)

10/7_水~11/23_{月・祝}

おのみち歴史博物館

火曜休館

10:00~18:00 (入館17:30まで)

〒722-0045 広島県尾道市久保1丁目14-1

入館料 一般210円
共通520円 (おのみち映画資料館も観覧できます)

※中学生以下無料

※障害者手帳(ミライロIDも可)を提示時、ご本人様と介護人1名は無料

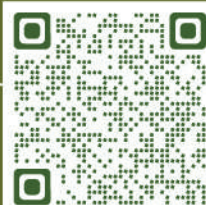
【主催】

尾道市

尾道市歴史文化まちづくり推進協議会

北前船日本遺産推進協議会尾道事務局

詳しくはこちら→
(日本遺産尾道市公式サイト)



【お問い合わせ】尾道市文化振興課文化財係(〒722-8501 広島県尾道市久保1丁目15-1) TEL(0848)20-7425

「近世尾道の茶園文化」 「北前船船主が見た尾道の栄華」



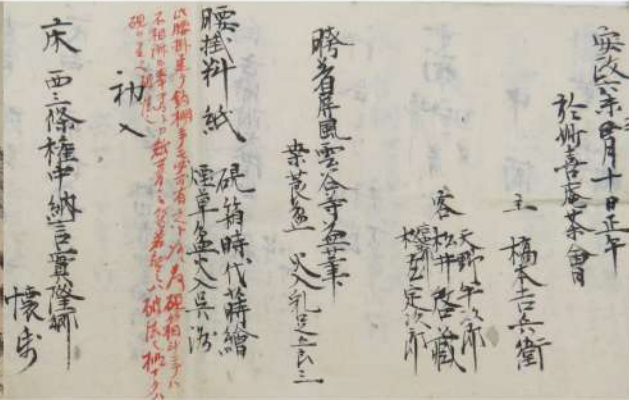
▲爽籟軒茶室



▲挹翠園跡出土茶器



▲加島園全景図(尾道市立美術館 所蔵)



▲明喜庵茶会記(橋本家文書 広島県立文書館 所蔵)

江戸時代、港町尾道は、北前船等多くの廻船の寄港により、飛躍的に発展しました。多くの豪商が生まれ、豪商達は町周辺に茶園と呼ばれる別業(別荘)を築きます。文化10年(1813)佐渡国沢根の北前船船主の笹井秀山は、各地を訪れた紀行文『海陸道順達日記』を表しており、その中で、繁栄する港町尾道の茶園にも立ち寄っています。近世尾道の茶園は、遠隔地からの来訪者や文人が集う文化交流の場でもあったのです。

本展では、近世尾道の茶園文化を物語る茶園出土資料や茶園文化関連資料などから、近世尾道の文化交流のストーリーを紐解きます。

【展示内容(予定)】

北前船船主が見た近世尾道の茶園

1 爽籟軒庭園

- ・爽籟軒庭園[久保茶園]古図(県立文書館)
- ・橋本家文書[久保茶園]購入文書(県立文書館)
- ・安政六年妙喜庵茶会記(県立文書館)

2 海物園

- ・海物園揮毫書
- ・主屋棟瓦

3 浄土寺庭園

- ・茶会記(県立文書館)

その他の茶園

- ・加島記・加島絵図(市立美術館)
- ・挹翠園発掘調査資料(前茶器)
- ・御屋敷毎日献立(県立文書館)

【お問い合わせ】

尾道市文化振興課文化財係(広島県尾道市久保1丁目15-1)
TEL (0848)20-7425

そうらいけん 爽籟軒庭園【尾道市名勝】

ㄥ 爽籟軒茶室【尾道市重要文化財】



爽籟軒は江戸時代の豪商橋本家の別荘で、趣向を凝らした庭園や茶室は、当時の豪商や尾道の繁栄の歴史を物語る文化遺産。

とりわけ爽籟軒茶室「明喜庵」は、京都山崎にある国宝「妙喜庵待庵」の写しで、日本に数例しかなく、歴史的資料としても貴重な文化財です。

【開園日】土曜・日曜・祝日・1月2日～3日 ※荒天時は臨時休園

【時 間】4月～10月(10時～17時)／11月～3月(10時～16時)

【入園料】一般100円 ※中学生以下無料 ※障がい者手帳など可

